

平成 19 年 10 月定例記者会見 配布資料

H19(2007).10.10(水) 14:00～

第 2 次札幌新まちづくり計画の特徴

1. 人を大事にする視点『人をはぐくみ、人の力を活かし、人のぬくもりあふれる』街の実現に向けた取り組み

少子化への対応や、市民や企業の主体的な活動への支援、高齢者や障害のある方への支援などを重点とした。

- 子どもを生き育てやすい環境づくりを進めるため、民間保育所の定員の拡大や多様な保育サービス、子育てサロンの拡充、小学校就学前までの子どもの医療費の原則無料化など
- 子どもの豊かな心をはぐくむ環境づくりに向けて、札幌ゆかりの彫刻家である佐藤忠良の作品を収蔵・展示する施設の建設など
- 高齢者が地域で安心して健やかな生活を送れるよう「敬老優待乗車証」の利用限度額の引き上げ、地域密着型の特別養護老人ホームの整備など
- 障がいのある方へのさまざまな「就労への支援」の実施、「元気ショップ2号店」の開設など

2. 『都市の魅力アップ』への取り組み

- 札幌駅と大通を結ぶ「駅前通地下歩行空間」について、北海道の玄関口にふさわしい賑わいと、北海道の自然の美しさなどを感じさせるような魅力ある空間として整備するとともに、札幌の文化や観光情報のほか道内他地域の情報を発信できる空間として、平成 22 年度中の完成を目指す。
- 「創成川通」では、平成 20 年度にはアンダーパス部分が完成し、その地上部は緑と水に親しめる新たな緑地空間として市民や観光客の憩いの場となるよう整備

- 駅前通りなどでは新たな民間ビルも建設されるため、平成 22 年度末には札幌駅から大通、そして創成川沿いと、札幌の新しい賑わいの空間が都心に誕生
- 市民会館の後継施設の整備を含め、創世1・1・1区(さんく)の再開発事業を推進
- 将来の北海道新幹線札幌延伸を踏まえて、札幌駅周辺の再整備構想を策定
- 藻岩山を市民や観光客に親しまれる場所として再整備
- サッポロ・シティ・ジャズの実施など、賑わいづくりのソフト事業

3. 『道内各市町村との連携』の取り組み

札幌には、人や物、情報などが集積しており、多くの人々が観光やビジネスで訪れるため、これらの都市の魅力や機能、集客力を道内の各市町村にもっと活用していただきたい。

- 各市町村と連携して、食や観光資源の情報発信や特産品の販売を行う拠点を都心に整備
- 大通公園で北海道の食を楽しめるような新たな秋のイベントの開催など、道内の各市町村とともに、北海道全体の魅力向上や活性化を目指して、札幌が先導的な役割を果たしていきたい。

4. 『安全・安心』の取り組み

耐震偽装の発覚、大規模な地震や凶悪な犯罪などが続き、安全で安心な日常の暮らしを確保することがより一層求められている。

- 地域ぐるみでの防犯・防災対策
- 災害時に応急活動の拠点や避難場所となる公共施設の耐震化
耐震性能の特に低い建物については、23 年度までに耐震化を行い、特に学校施設の耐震補強や老朽化の著しい学校施設の改築を実施。
- 橋梁の耐震補強など